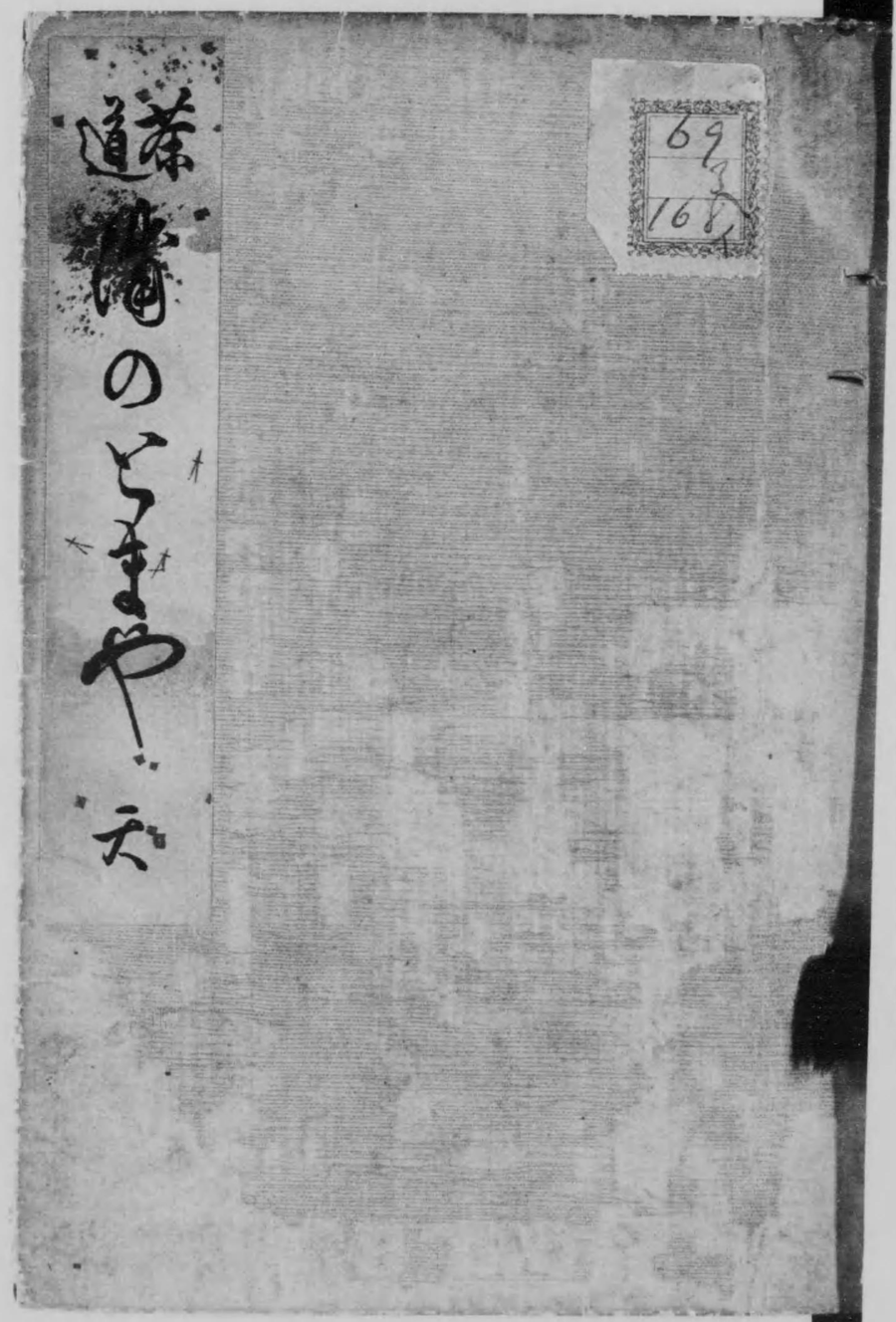


始

和

清寂

序

柏堂文庫

今日庵露路
中央刊休堂
老又隱

國禪師

序文

いにしへ、茶實の、皇國に傳はりし後、茶儀の盛に起りしは、中むかし足利氏の比なり、繼ひて、織田豐臣德川の諸氏も、をり〳〵、茶會を設けて、侯伯將士を、待遇し、治國平天下の一助とす、北野大茶湯の、一時の名會もありて、つひに、皇國ひとつの、禮式ともなりしは、いとも〳〵、かしこきことにこそ侍れ、此軍戰多事の時にいでゝ、喫茶の儀を定めた

2. 10. 21

る、人々のある中にも、利休居士は、斯道の先匠にして、所謂る千家の祖なり、その家代々茶博士にして、今に流儀の傳はるは、又尊むべきの至りならずや、ことに、此伎により て、千載の珍器、名人の傑作の、今に保存する、こよなき國家のさちなり、贋僞の品ありといへとも、眞正のものは、徵古のひとはしとゝいはん、居士は茶儀の、奢侈華美に流るゝを憂ひ、もはら、素朴を示されけるとそ、されは、心を正うし、身を脩め、家をとゝの

へ、耳には松濤にたくふ、沸濤の聲を聞て、心を澄し、口には深省を覺悟するの、清味を嘗め、平生心をして、閑雅靜肅ならしむるは、けに茶道の基礎なり、王政復古のゝち斯道まさに〳〵、盛昌に赴くかまに〳〵、初心のともから、弊習を生し、大意を失ふのみならず千種百般の習ひあり、作法定式のさま〳〵なるを、究めず、知らざるを知れりとし、許さるをにたりとするの、恐れあるを免れず、ゆゑに、今の宗匠なる、宗室大人、一書を著し家系を述

るを始とし、さまぐに示されしは有益の書なり、これにはし書せよと、いはるゝに、いさゝかかいつけ、侍るになん

毘尼薩台巖

はしがき

我等か祖先利休居士は

ならひをば、ちりあくたぞと、思へかし、

書物は反古、腰張にせよ、

と教へられまた三世宗旦居士は

茶のみちは、こゝろにつたへ、目につたへ

耳につたへて、ひと筆もなし、

と諭されしより考ふれは、茶の道につきて、

今しもかく筆にまかせ梓に上さんは、われら

が遠つ祖の御心にも貧くめれど、近き頃、この道の盛に行はるゝまに〳〵、法をみだし、點前の作法などまち〳〵になり行きて、ひとつの流れを汲む身ながらも、あなたこなたに、そろはぬふしのありつることの、いとなげかはしくて、點前の作法を、こたび、ひとつわざに、取そろへんとの心より、かくは六の巻となして、あらはし出てつるなり。されば、同じ流れを汲める人たちは、この書によりて一つわざに、そろへ給はんことを、われらはひたすらに、願ひまつるになむ。

そも〳〵茶の道は其奥いと深うして、とても僅の紙の面には、かきつくしがたければ、この書には、平手前のことをのみ、しるし置きつ。しかも平手前のみにても、學ぶべき數多ければ、この書にて、かき盡したるものとなな思ひたまひそ。

見渡せば、花も紅葉も、なかりけり、うら
のとまやの、秋のゆふぐれ、

と定家卿のよみたまひし歌は、いたく茶の道

に、かなへりとて、利休居士の、常にめでゝ口にしたまひしものなれば、かたぐ、この書の名を、うらのとまやとこそは、なつけゝれ見ん人この歌の心をよく味ひたまひて、茶の道をきはめたまはんことを、ねがまつるになむ。

鐵中宗室述

茶道 うらのとまや 一之巻

目次

一 村雲日榮尼公御題字
一 曹洞宗管長直心淨國禪師題字
一 海軍中將正三位男爵伊藤閣下題字
一 又妙齋千玄室題字
一 若原宗祐老題字
一 毘尼薩台巖師序文
一 鐵中宗室はしがき

一今日菴歴代考
一利休居士教諭百首詠
一四疊半本勝手風爐初炭手前
一四疊半逆勝手風爐初炭手前
一中置初炭手前
一透木扱の事
一臺子長板類風爐炭手前
一棚ある時の風爐炭手前
一風呂臺目席本勝手炭手前
一同逆勝手炭手前

一四疊半本勝手風呂後炭手前
一四疊半本勝手風呂薄茶點前
一四疊半本勝手風呂濃茶點前
一四疊半逆勝手風呂薄茶點前
一中置薄茶點前
一臺子長板類風呂薄茶點前
一長板風呂點前
一臺子長板類風呂濃茶點前
一棚ある時の風呂薄茶點前
一仝濃茶點前

一風呂臺目席濃茶並薄茶點前
一立禮式の種類並に點前

茶道

うらのとまや 一之巻

千玄室
千宗室 共編

今日菴歴代考

祖先宗易、利休ト號シ拋筌齋ト稱ス初メハ納屋與四郎泉州堺ノ人ナリ織田信長ニ從ヒ千姓ヲ賜フ後豐臣秀吉ニ仕ヘ三千石ヲ領シ洛北ニ地ヲ賜ヒテ世々是レニ住ス天正十

三年九月　正親町上皇勅シテ居士ノ稱ヲ賜フ同年十月七日於小御所　後陽成天皇幷ニ　正親町上皇ニ自ラ茶ヲ献ズ初メ古溪和尚之禪門ニ入リ又傳ヲ紹鷗ニ受ケ遂ニ茶道ノ大成ヲ爲ス織田有樂細川三齋蒲生氏郷荒木攝津瀨田掃部芝山監物高山右近等其門ヲ叩ク者甚ダ多シ天正十八年二月廿八日秀吉ヨリ死ヲ賜紫野聚光院ニ葬ル歳七十四不審菴利休居士ト云フ

二代　宗淳、少菴ト號シ初メ四郎左衞門ト稱ス宗易ノ養子也兄道安病有ルヲ以テ宗淳ニ家ヲ繼ガシム慶長十九年九月七日沒シ紫野聚光院ニ葬ル歳六十九少菴宗淳居士ト云フ

三代　宗旦、元伯ト號シ今日菴咄々齋ト稱ス宗淳ノ子也幼ニシテ紫野聚光院

ニ入リ喝食シテ藏主トナル後漸ク人ト成ルニ及ビ寺ヲ出テ宗淳ノ爲メニ家ヲ繼グ性英邁ニシテ質素ヲ好ミ能ク祖父ノ意ヲ得タリ寛永ノ始メ　後水尾天皇幷東福門院ニ召出ダサレ自ラ茶ヲ點ジテ献ズル「數度後茶道ヲ一洗シテ大ニ舊体ヲ改ム暫クシテ嫡子逢源齋ニ不審菴ヲ讓リ別ニ二疊敷ヲ營ミ退隱シテ清巖和尚ヲ

招キ菴號ヲ乞フテ今日菴ト命名ス今日菴ノ稱茲ニ於テ始マル萬治元年十二月十九日沒ス歳八十一聚光院ニ葬リ元伯宗旦居士ト云フ

四代　宗室、

仙叟ト號シ今日菴ト稱ス宗旦ノ第三子也　明正天皇ノ御代寛永十一年ヨリ十六年ニ至ル迄毎歳年頭八朔之節會ニ禁中ヘ献茶ヲ爲ス而シテ又加州ニ仕ヘ元祿十

年正月廿三日沒ス歳七十六聚光院ニ葬リ仙叟宗室居士ト云フ

五代　宗室、

常叟ト號シ不休齋ト稱ス幼名ハ宗安仙叟ノ子也寛延二年ヨリ寶歴三年ニ至ル迄同ジク年頭八朔ニ禁中ヘ献茶ヲ爲ス而シテ初メ加州ニ仕ヘ晩年豫州松山ニ仕フ寶永九年五月十四日沒ス歳三十九同ジク聚光院ニ葬リ常叟宗室居士ト云フ

六代　宗安、

泰叟ト號シ六閑齋ト稱ス常叟ノ子也豫州松山ニ仕フ享保十一年八月廿八日沒ス歳三十三聚光院ニ葬リ泰叟宗室居士ト云フ

七代　宗乾、

笠叟ト號シ最々齋ト稱ス泰叟ノ義子ニシテ原叟ノ子也享保十八年三月二日沒シ聚光院ニ葬ル歳二十五笠叟宗乾居士ト云フ

八代　宗室、

一燈ト號シ又玄齋又ハ勿々軒梅含堂ト稱ス宗乾ノ義子實弟也豫

州松山ニ仕フ明和八年二月二日
没シ同ジク聚光院ニ葬ル歳五十
三一燈宗室居士ト云フ

九代　玄室、

石翁ト號シ不見齋ト稱ス一燈ノ
子也豫州松山ニ仕ヘ享和元年九
月廿六日没シ聚光院ニ葬ル歳五
十六石翁玄室居士ト云フ

十代　宗室、

柏叟ト號シ認得齋ト稱ス石翁ノ
子也同ジク豫州松山ニ仕ヘ文政
九年八月廿四日没ス歳五十七聚

光院ニ葬リ柏叟宗室居士ト云フ

十一代宗室、

精中ト號シ玄々齋、不忘齋、又ハ
虚白齋トモ稱ス柏叟ノ養子ニシ
テ舊幕下三州奥殿領松平縫殿頭
ノ末子也尾州幷ニ松山ニ仕ヘ立
禮式又ハ仙遊、雪月花茶箱點ノ
類等ヲ起シ其他大ニ道之規矩式
法ヲ改ム而シテ慶應年間禁中ヘ
茶ヲ献ジタル等ノ逸話モ又少ナ
カラズ實ニ中興ノ祖ト爲ス明治

十年七月十一日沒ス歳六十八聚光院ニ葬リ精中宗室居士ト云フ

十二代玄室、直叟ト號シ又妙齋ト稱ス精中ノ養子ニシテ角倉伊織ノ長子也明治十八年十月廿八日今日菴ヲ宗室ニ讓リ隱退ス

十三代宗室、鐵中ト號シ圓能齋ト稱ス

利休居士教諭百首詠

其道に入らんと思ふ心こそ我身ながらの師匠なりけれ

習ひつゝ見てこそ習へ習はずに善悪いふは愚なりけり

志ふかき人にはくり返しあはれみそへて奥を教へよ

はちをすて人に物とひ習ふへし是そ上手の基なりける

上手にはすきと器用と功つむと此三つ揃ふ
人を能しる
手前には弱みを捨てゝたゝ強くされと風俗
卑しきを去れ
手前には強みはかりを思ふなよ強きは弱く
輕く重かれ
茶の手前ものしすかにときくものを麁粗に
なせし人は誤り
何にても道具扱ふ度ことに取る手はかるく
置手おもかれ

濃茶には手前をすてゝ一筋に服の加減と息
をちらすな
濃茶には湯加減熱く服は尙泡なき樣にかた
まりもなく
とに角に服の加減を覺ゆるは濃茶たび度點
てよくしれ
よそにては茶を汲て後茶杓にて茶碗の緣を
心してうて
中繼は胴を横手にかけてとれ茶杓は直に置
く物をかし

棗には蓋半月に手をかけて茶杓は丸く置く
とこそしれ
薄茶入蒔繪彫もの文字あらば順逆覺えあつ
かふとしれ
肩衝は中繼とまた同じこと底に指をはかけ
ぬとぞしる
文琳や茄子丸つぼ大海は底にゆびをはかけ
てこそもて
大海をあしろふ時は大指を肩にかけるそ習
ひなりける

口廣き茶入の茶をは汲むと云狹き口をはす
くふとそ云
筒茶碗深き底よりふき上り重ねて内へ手を
やらぬもの
乾たる茶巾使は湯を少しこほし殘してあし
らふそよき
炭置はたとへ習ひに背とも湯のよくたきる
炭は炭なり
客になり炭つぐならは其度に薫物抔はくべ
ぬ事なり

炭つかは五德狹むな十文字緣をきらすなつ
り合を見よ
焚殘る白炭あらば捨おきて又餘の炭を置く
ものそかし
炭おくも習ひはかりに拘りて湯のたきらざ
る炭は消炭
崩れたる其白炭をとりあげて又焚そへる事
はなきなり
風爐の炭見る事は無見ぬ迚も見ぬこそ猶も
見る心なれ

客に成底取ならはいつにても圍爐裏の角を
崩し盡すな
客になり風呂の其内見る時は灰崩れなん氣
遣ひをせよ
墨跡を懸ける時はたくぼくを末座の方へ大
方はひけ
繪の物を掛る時にはたくぼくを印ある方へ
引置もよし
冬の釜圍爐裏緣より六七分高くすゑるそ習
ひなりける

品じなの釜によりての名は多し釜の總名鑵子とそいふ

繪掛物左り右向き向ふむきつかふも床の勝手にそよる

姥口は圍爐裏縁より六七分低くすゑるそ習ひなりける

置合せ心をつけて見るそかしふくろの縫目疊目におけ

はこひ點水指置くはよこ疊二つ割りにてまん中におけ

茶入又茶筌のかねをよくも知れ跡に殘せる道具目當に

何にても置き付け歸る手離は戀しき人にわかるゝと知れ

水指に手桶出さは手は横に前の蓋とりさきにかさねよ

餘所などへ花を送らば其花の開き過しはやらぬ物なり

釣瓶こそ手は竪に置け蓋取らは釜に近付方を知るへし

小板にて濃茶を點ばば茶巾をば小板の端に置く物そかし

掛物の釘打ならは大輪より九分下けて打釘も九分なり

喚がねは大と小とに中々に大と五つのかすをうつなり

茶入より茶を掬ふには心得て初中後すくへ夫か秘事也

湯をくむは柄杓の心つきの輪のそこねぬやうに覺悟して汲

柄杓にて湯をくむ時の習には三つの心得ある物そかし

湯を汲て茶碗に入るゝ其時の柄杓のねちは肱よりそする

柄杓にて白湯と水とを汲時はくむと思はしもつと思はし

茶を振は手さきを振と思ふなよ臂より振れと夫か秘事也

床に又和歌の類をは掛るなら外に歌書をは莊ぬと知れ

外題ある物を餘所にて見時は先づ外題をは
見せて披けよ
羽箒は風爐に右羽よ爐の時は左羽ねをは使
ふとそ知る
名物の茶碗出たる茶の湯には少し心得かは
るとそ知る
曉は數寄屋のうちも行燈に夜會などには短
けいをおけ
ともし火に油を注は多くつけ客にあかさる
心得と知れ

燈火に陰と陽との二つありあかつきは陰よ
いは陽なり
古へは夜會などには床の内掛もの花はなし
とこそきけ
爐のうちは炭斗ふくべ柄の火箸陶器香合ぬ
り香とし
古へは名物などの香合へ直にたきもの入れ
ぬとそきく
風爐のとき炭は茶籠にかね火箸ぬり香合に
白檀をたけ

蓋置に三つ足あらば一つ足まへにつかふと
心得ておけ
二畳臺三畳臺の水さしは先九つ目におくが
法なり
茶巾をはなかみ布巾一尺によこは五寸のか
ね尺としれ
服紗をは竪は九寸餘よこはゞは八寸八分か
ね尺にせよ
うす板は床かまちより十七目または十八十
九目におけ

うす板は床の大小また花や花生によりかは
るしな〳〵
花入のをれ釘うつは地敷居より三尺三寸五
分餘もあり
花入に大小あらは見合せよかねをはづして
打がかね也
竹釘は皮目を上にうつそかし皮目を下にな
す事もあり
三つ釘は中の釘より両脇を二つわりなるま
ん中にうて

三幅の軸を掛るは中をかけ軸さきをかけつきに軸もと

掛物を掛ておくには壁付を三四分すかしおく事ときく

花見より歸て人に茶の湯せは花鳥の繪をも花も置まし

時ならす客の來らは手前をば心は草にわざと慎しめ

釣舟はくさりのながさ床により出船入船うき船としれ

壺なとを床にかざらん心あらは花より上に莊り置べし

風爐濃茶必す釜に水さすと一筋におもふ人はあやまり

右の手を扱ふときはわが心左のかたにありと知るへし

一手前點るうちには善惡と有無の心のわかちをもしる

なまるとは手つゝき早く又遲く所々にむらあるをいふ

手前には重きを輕く輕きをは重くあつかふ
味ひを知れ
盆石をかさりし時の掛物に山水などはさし
あひと知れ
板とこに葉茶壺茶入品々をかざらで莊る法
もありけり
床の上に籠花入を置く時は薄板などはしか
ぬものなり
掛物や花を拜見するときは三尺ほどは座を
よけて見よ

稽古とは一より習ひ十を知り十より歸るも
とのその一
茶の湯をは心に染て目にかけず耳を潜めて
聞事もなし
茶を點ば茶筌に心よくつけて茶碗の底へ强
くあたるな
目にも見よ耳にも觸よ香を嗅て事を問つゝ
能合點せよ
ならひをば塵芥ぞと思へかし書物は反古腰
ばりにせよ

水と湯と茶巾茶筌に箸楊枝柄杓を心あたらしきよし

茶はさびて心は厚くもてなせよ道具はいつも有合にせよ

茶の湯には梅寒菊に木葉實落青竹枯木あかつきのしも

茶の湯とは只湯を沸し茶を點て飲計なる事と知るへし

もとよりもなきいにしへの法なれと今そ極る本來の法

規矩作法守り盡して破るとも離るゝとても本を忘るな

四疊半本勝手風爐初炭手前

一風呂の据方は道具疊の向小眞中下りて小板を置く左は疊の目五つ七つ又は九つ目の所に据へ置く可し

一茶道口に座し両手にて炭計を持ち右足より席に入りて炭斗を風呂の右脇に置き左膝より立ち右へ廻りて左足より茶道口に入る本勝手席の茶道口の出入總て斯の如くなす可し次に灰匙の柄を横にして灰器に入れ其柄の向を右手に持ち出でゝ膝を風呂の正面より少し左方へ向座して灰器を左手に持ち替へ道具疊の下座の左隅に置き膝を風呂の正面へ向け居前を定む

一次に第一圖の如く右手にて羽箒を取り風呂と炭斗との間に置き同じく右手にて鐶を取り炭斗の眞前に置き又右手にて火箸を取り羽箒の左に置き更に右手にて香合を取り出し左掌の上にて一寸扱ひて小板の左前角の疊の上に置き次に釜の蓋を爲す若し共蓋の

釜なる節又は婦人は服紗を捌き釜の蓋を閉め直ちに服紗を帶に挾む

一次に右手にて鐶を取り一方を左手に渡し両手にて同時に釜へ鐶を懸け置きて右手にて釜敷を取出し左手に渡し更に右手に持ち替ゆると共に打返し炭斗の前少し右へ寄りたる所に置き一膝向ふへ進みて両手にて鐶を持ち釜を取りをろして釜敷の上に置き其儘一膝客付へ向き直り釜を下座へ引き寄せ置き鐶を外して二つ乍ら右手に持ち釜の下座に置く

一然る後膝を風呂の正面へ向け右手にて羽箒を持ち圖に示す（イ）の如く風呂を箒き羽箒を炭斗の前に手成りに置き火箸を取り右膝先の疊の上に突き持ち替へて下火を直す然る後火箸を以て胴炭を挾み左手を火箸に添へて風呂の前の方に入れ次に右手を離しギッチョウ管炭枝炭止炭を順次に次ぎ終りて火箸を右膝先にて前の如く突き持替へて炭斗の中へ初めの如く入れ置き同じく右手にて

羽箒を取り圖に示す（ロ）の如く箒き羽箒を元座に置き一膝左方へ向き左手にて灰器を取り右手に渡し風呂の正面に持ち廻りて左手を灰器の左に添へて膝前に置き更に右手にて灰匙を持ち左手を添へて火口の灰に月形を切り其すくひ取りたる灰を風呂中向ふの方へ蒔き灰匙を灰器に返し右手にて灰器を取り上け一膝左方へ向き灰器を左手に渡して元座に置く

一次に風呂の正面に向き直り右手にて羽箒を取り圖の（ハ）に示す如く箒きて羽箒を炭斗の上に載せ右手にて香合の蓋を取り左掌に載せ右手にて香合の蓋を取りて右膝先の疊の上に置き火箸を取り蓋の右方乃ち疊の眞中にて突き持ち替へて香を挾みて一つは火の中一つは炭の上に焚きて火箸を炭斗の中に入れ香合の蓋を爲す

一此時上客は香合の拜見を乞ふ亭主之れを受けて其儘一膝客付へ向き香合の前向ふを正して貴人疊の手近の隅の所に出し置直ちに

鐶を取りて釜に懸け其儘鐶を持ちて釜を膝前迄引き付け置き居前に向直り再び鐶を持ちて釜を風呂に懸け次に右手にて釜敷を取り打返して左手に渡し更に右手に持替炭斗の中に初めの如く入次に鐶を釜より外づし右手にて合せ目を持炭斗中前の方へ入れ一膝下りて羽箒を取り釜の蓋をヲの字形に箒き羽箒を前の如く炭斗の上に載せ釜の蓋を切りかけ置く(共蓋又は婦人は服紗にて釜の蓋を扱ふ事前に述べたる如し)

一次に一膝左之方に向き左手にて灰器を取り初めに持ち出したる時の如く右手に持ち替へ立ちて左へ廻りて勝手へ引く次に出て両手にて炭斗を持ち引退く

一亭主灰器を引きたる後上客は前へ進み香合を取り込み右膝先の所に置きて控へ居り亭主炭斗を引き去りたる後次禮して香合を疊の縁外に置き拜見して次客の右膝先の所へ送る次客以下總て之れに同じ末客見終れば上客幷に末客は共に前に進み出會ひて末客

は上客に香合を返して席に復す上客は之れを取り上げ前向ふを正して貴人畳の次畳茶碗返す所へ返す

一香合返らば亭主は香合の前に進み出で客に正面して座す上客は一禮し亭主は答禮して右手にて香合を取り左掌へ載せ右手を香合に添へて勝手へ引き茶道口に座して一禮を爲す

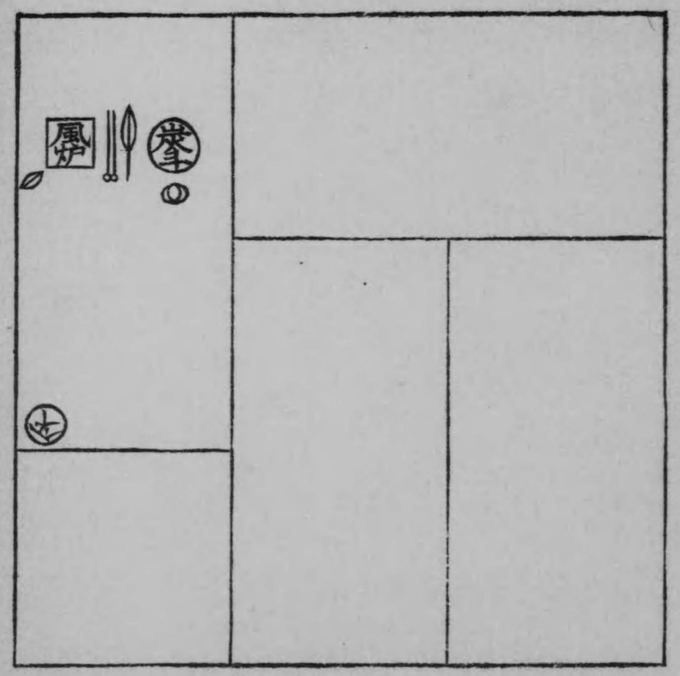
一前述の手前には道安風呂を用ひたる場合を示したる者にして風呂に依り多少の差異在りと雖ども左に示す者の外は大概ね此手前に順じてよし

一切懸け風呂鐵風呂(道安形は此限に非ず)朝鮮風呂掻風呂等總て蒔灰を爲さゞる風呂には灰器を用ひず

一紹鷗風呂丸風呂等を箒くに前後の箒き方は道安風呂に同じく爲し炭を次ぎて後箒く時のみ圖中に(ニ)示す如く箒く可し

一切懸風呂等を箒くには(イ)(ハ)に示す如く爲す可し而して火口の小さき風呂は炭を次ぎた

る後に（ハの如く）箒きて火口を一度箒き普通なれば火口を二度極めて大なる火口は三度箒く可し



眉風呂掃方

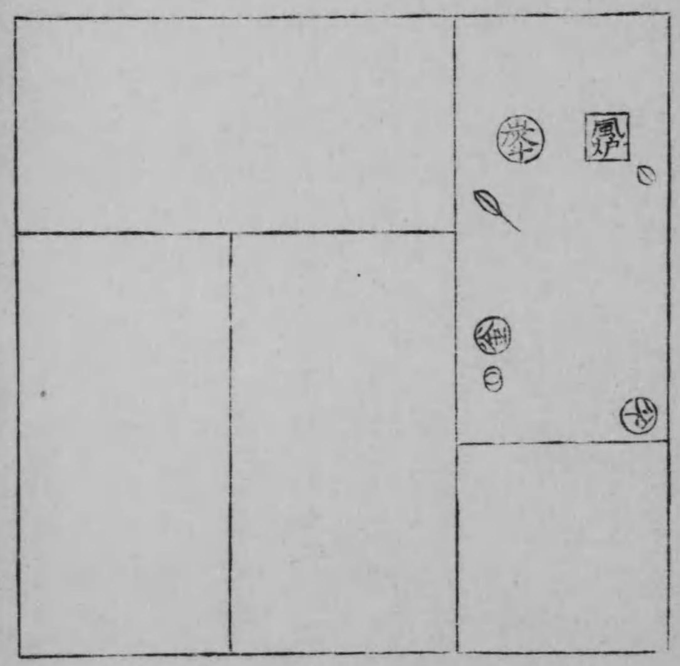
土風呂掃方

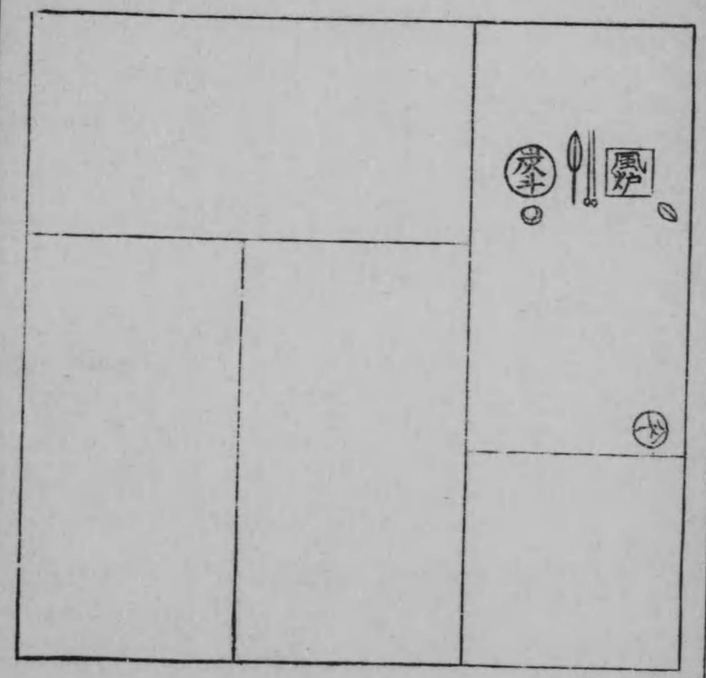
四疊半逆勝手風爐初炭手前

一服紗を帶の右に付けて茶道口に座し両手にて炭斗を持ち左足より席に入り風呂の左脇に置き次に右手に灰器を持ち同じく運ひ出して定座に置き風呂の正面に向き羽箒を左手にて炭斗の右脇に置き同じく鐶を取りて炭斗の前に置き次に同じく火箸を取り羽箒の右脇に置き右手にて香合を取出し左掌の上にて扱ひ右手にて風呂の右前角に置き次

に釜の蓋を閉め左手にて鐶を取り一つを右手に持ち共に釜へ懸け置きて左手にて釜敷を出し打返して右手に渡し更に左手に持替へて炭斗の前少し左方へ置一膝進みて釜を上げ定座に引き付けて後居前に向き左手にて羽箒を取り右手に渡し風呂を本勝手に示したる如く箒き左手に渡して炭斗の前に手成りに置き左手にて火箸を取り右手に渡し下火を直し炭を次ぎ火箸を左手に渡して炭斗の中に入れ前の如く羽箒を取り本勝手の

如く風呂を箒き羽箒を元に返し灰器を取り灰匙を右手に持ち月形を切り灰器を元座に返し羽箒を取り風呂を箒き羽箒を炭斗に置き右手にて香合を取り左掌に載せ蓋を取りて右膝前に置き同じく右手にて火箸を香合の蓋の右の方に突き持ち替へて香を挾みて香を焚き火箸を元の如くして炭斗の中に入れ香合の蓋を爲す此時上客は香合の拜見を乞ふ等以下總て本勝手の打返しなり





中置初炭手前

一風呂を道具畳の間中より凡そ八寸程向ふ左右中央に据へ置く可し

一亭主両手にて炭斗を持ち出し小板の前の右方へ置次に炭斗を持出し前に述べたる如く定座に置き居前を風呂の正面に定む

一次に右手にて羽箒を炭斗の前に竪つに眞直に置き同じく右手にて香合を出して左掌の上にて扱ひ小板の左前角の畳の上に置き次

に釜の蓋を閉め釜に鐶を懸け置きて右手に
て釜敷を取り出し打返して左手に渡し左膝
脇に置き一膝進みて釜を上け其の上に置き
其儘一膝左へ向き釜を少し左方へ引寄せ鐶
を外づして釜の下座に置き居前に向き直り
て羽箒を取り前に述べたる如く風呂を箒き
羽箒を炭斗の前へ竪に置き火箸を取り下火
を直し炭を次ぎ火箸を炭斗の中に入れ羽箒
を取り風呂を箒き羽箒を元座に置き次に灰
器を取り灰に月形を切り灰器を元座に戻し

羽箒を取り風呂を箒き羽箒を炭斗の上に載
せ香合を取り香を焚く等本勝手に變ることと
無し

千玄室茶道大系
風炉
茶碗

千宗室茶道大系
風炉

透木扱の事

一透木を用ひたる時は普通炭手前の如く爲し釜を上げ定座に引き寄せ鐶を外して定座に置き居前に向き直りて右手にて右の方の透木を取り打返して左掌に載せ又右手にて左方の透木を取り其儘左掌の透木の上に重ね再び右手にて二つ共に打返し客付へ持廻り右手にて鐶の下座に火付の方を釜付に向け置く

一終りに香を焚きて後客付へ向き右手にて透木を取り左掌に載せ居前に向き右手にて透木の上の方を取り風爐の右縁に載せ次に下を打返して左縁に載せて後更に客付に向鐶を釜に懸け常の通り釜を掛く其他總て常の通り爲す可し

臺子長板類風爐炭手前

一臺子長板本莊の節には火箸を除き常の如く炭斗を持出し水指の前疊の上に置き次に灰

器を運び出して定座に置き風呂に向ひて座し羽箒を取り炭斗の前に手なりに斜めに置き次に香合を取出して地板の左前角の疊の上に置きて釜の蓋を閉め鐶を取出して釜に懸け置き釜敷を取り羽箒の前に置き一膝進みて釜を上げ釜を常の所より少し右寄りたる方へ引き常の通り鐶を外づし置き居前に向き直りて風呂を箒き羽箒を元座に置き両手を膝前に突きて右手にて杓立に莊り有火箸を抜き取り左手にて一寸扱ひ下火を直し

炭を次ぎ火箸を炭斗の中に常の如く入れ置き羽箒を取り風呂を箒き炭を爲す等の手順は運び手前に同じく香合を客へ出す時は貴人疊の次の角へ出す可し

一終りに釜の蓋を箒き羽箒を炭斗の上に置き右手にて火箸を取り左手に渡し更に右手にて羽箒を取り炭斗の上にて火箸の表を二度打ち返して裏を一度箒き羽箒を元に返し火箸を右手に持ち替へ左手を膝前に突きて火箸を元の如く杓立に莊りて後釜の蓋を切る

一長板二つ置きの節は炭斗并びに灰器を前の如く置き羽箒香合を出し釜の蓋を閉め釜に鐶を懸け置きて釜敷を出す其他常の通り

一長板一つ置は初め羽箒を風呂の前板の上に一文字に置き香合を左方の羽先に置く其他中置炭手前に同じ

棚ある時の風爐炭手前

一普通炭手前の如く炭斗を持出し棚の前に置き次に灰器を運び出して定座に置き居前に向き直りて羽箒を取り炭斗の前へ斜めに置き直ちに香合を取出して小板の脇常の所に置き釜の蓋を閉め釜に鐶を懸け置き釜敷を出し一膝進みて釜を上げ釜を常の所より少し右へ寄りたる方へ引き鐶を外づして釜の下座に置き居前に向き直りて風呂を箒き下火を直し炭を次ぐ等餘は運び手前に同じ

風呂臺目席本勝手炭手前

同逆勝手炭手前

丸疊臺目席

一本勝手幷同逆勝手風爐置方向八寸明ける本臺目は向六寸明ける

一向板の席は板の大小に從り置方多少の違ひあり

四疊半本勝手風呂後炭手前

一後炭手前は枝炭を炭斗の前の方に逆しまに立て置き胴炭を除きて炭を常の如く組み置く

一常の如く炭斗持出し定座に置き次に灰器を運び出して初炭手前の如く置き風呂に向ひて座す

一次に常の如く羽箒を風呂と炭斗の間に置き直ちに香合を取出して小板の左前脇に置き

釜の蓋を爲す次に鐶を釜に懸け置きて釜敷を出し三手に扱ひ炭斗の前に置き一膝向へ進み釜を取上け釜敷の上に載せ一膝客付へ向き直り釜を初炭手前に同じく引寄せ鐶を外づして釜の下座に置き居前に向き直る

一次に羽箒を取り常の如く箒き炭斗の前に斜に手なりに置き火箸を取り下火を直し炭を次く事初炭手前に變りなし下火の都合に依りて枝炭管炭を共に挾み次ぎても宜し

一炭を次ぎ終らば風呂を箒き羽箒を元に置き灰器を取り前に置き灰匙にて蒔き灰を匕ひ初炭の節切り取りたる月形を埋て灰匙を灰器に戻し灰器を元座に返し置羽箒を取り風呂を箒き羽箒を炭斗の上に置き香合を取り左掌に載せ火箸にて香を焚き火箸を元に返し香合の蓋を爲して炭斗の中に入る(但し亭主特に心を用ひ初炭の節用ひたる香合と異なる物を用ひたる時には客は拜見を乞ふ可し)

一亭主香合を炭斗の中へ入れ客付に向き釜に

鐶を懸けて炭斗の前迄引き付け置き鐶を外づして釜の下座に置く客は此時風呂中の拜見を乞ふ亭主之れを受けて居前に向置り一膝左方へ向き灰器を持ち勝手へ入り水次の口に蓋置を差込み茶巾を能く濕し疊みて蓋の上に載せ水次の口を左向きに爲し膝前に置き茶道口に座して据へ居る客の拜見を終り席に復するを待ち右手にて水次の手を持ち左手を底に當て持ち出でゝ釜に向ひて座し其儘鐶の下座に置き右手にて茶巾を釜の

蓋の上に置き同じく右手に蓋置を取り左手にて扱ひ右にて釜の前に置き茶巾にて釜の摘みを持ち蓋を蓋置の上に置き茶巾を取り左手に持たせ水次の口に當て右手にて水次を取り上げ釜へ水を次ぎ水次を元座に置き茶巾を右手に持替へ釜の蓋を取り蓋を爲し茶巾を其儘蓋の上に摘みを外づして載せ置き右手にて蓋置を取り左にて扱ひ元の如く水次の口に差込み置き右手にて茶巾を取り左手にて蓋の摘みを押へ茶巾にて蓋の向を

拭ひ次に前を拭ひ左手を外して同じく右手にて茶巾を持ちたる儘釜の鐶付より鐶付迄の向を拭ひ同じく前を拭ひ續いて前を半ば拭き戻して茶巾を水次の上に置き水次を前の如く持ちて勝手に入る

一次に出て風呂の前に座し釜に鐶を懸け風呂に釜を掛け釜敷を炭斗に入れ鐶を外づして同じく炭斗に入れ一膝下りて釜の蓋を切り一膝右へ寄り炭斗を持ち勝手へ入り一禮す其他大概ね初炭手前に順ず可し

四疊半本勝手風呂薄茶點前

一亭主茶道口に座し襖を開き水指を両手にて持ち立て右足より席に入りて風呂の右脇鐶付の所に置き左膝より立て客付に向ひ廻りて茶道口を左足より出づ本勝手の茶道口は總て斯の如く爲す可し

一次に右手に棗を上より半月形に持ち左手にて茶巾茶筌茶杓を組入れたる茶碗を持ち胸の高さに并べ持ち運び出して水指の眞を割

りて前に置合し前の如く立て茶道口を出づ

一次に建水の中に蓋置を入れ柄杓の合を建水の縁に俯向けて掛置き柄の右脇を左手にて持ち運び出して風呂に向ひて畳の眞中に座し建水を左膝脇に置く

一左手にて柄杓の節の所を持ち膝の眞中にて右手を添へ柄杓を搆へ右手にて杓の柄の内側より蓋置を取出し小板の左前角の畳の上に置き右手に柄杓を持替へ蓋置の上に置き柄は膝の方へ斜に引き直ちに建水を少し向へ進めて居前を正す

一次に右手にて茶碗の右横前の所を取り膝前に持ち來り左手にて碗の左横を持ち更に右手にて碗の右横に持ち替へ膝前の下に置き直ちに右手にて棗を取り茶碗と膝との間に置き次に左手にて腰の服紗を取り服紗捌きをなし畳みて右手に服紗を持ちたるまゝ左手にて棗を持ち棗の蓋を拭ひ水指の前の少しく左へ寄りたる所乃ち元茶碗の在りし所に置く又服紗を捌き直し畳みて左掌に載せ

右手に茶杓を持ち服紗にて茶杓を三度拭ひ棗の上に置く其儘直ちに右手にて茶筌を出して棗の右脇に置合し茶碗を少し前に引き寄せ置きて服紗を帶に挾む右手にて柄杓を取り左手にて節の所を持ち膝の眞中にて右手を添へ搆へて右手にて釜の蓋を取り蓋置の上に置く

一婦人又は釜の蓋共蓋なる時には茶碗を前に引寄せ直ちに服紗を左手の食指と中指の間に挾み柄杓を取り搆へて右手にて服紗を持ち服紗にて釜の蓋を取り服紗を柄杓の柄の内側よりして建水の後へ手なりに置く以下爐風呂共常に斯の如く爲すへし

一次に右手にて茶巾を出し釜の蓋の上に載せ置き右手に柄杓を持替へ湯を汲みて茶碗に入れ柄杓を釜の上に仰向に置・柄・杓・を爲して懸け置き右手にて茶筌を取り左手を茶碗に添へ三度茶筌投じを爲し茶筌を洗ひて茶筌元の所に置き右手にて茶碗を取り左手に持替へ湯を建水に捨て碗を持ちたるまゝ右手

にて茶巾を取り茶碗の中に入れ茶巾を以て茶碗の縁を挾み拭ふこと三度半茶巾を縁より外し碗の中に入れ元の如く疊みて中を拭ひ茶巾を碗に入れたる儘茶碗を右手に持ち替へ膝前に置き同じく右手にて茶巾を取り出し釜の蓋の上に元の如くに置く

一右手に茶杓を取り右膝先の所に持ちたる儘左手にて棗を取り茶杓を握ぎり込たる儘茶碗の左縁の所にて棗の蓋を取り蓋を茶碗の右脇少し膝前によりたる方へ置茶杓を以て茶をすくひ茶碗に入る最も茶杓により三杓まですくふも苦しからず次に茶杓に付きたる茶を茶碗の縁にて拂ひ茶杓を握り込みて棗の蓋を爲し棗を元座に返し茶杓を元の如く其上に載せ置く

一次に右手にて水指の蓋を取り左手にて蓋の前縁を持又右手にて左縁に持ち替へつまみを右にして水指の左方へ立掛け置き右手にて柄杓を取り湯を汲みて茶碗に凡そ半杓程注ぎて加減を計り殘りの湯を釜にあけ柄杓

を釜の上に切・柄・杓・をなして置く

一次に右手に茶筌を取り左手を茶碗に添へ茶を點じ左手を放し同時に茶筌を元座に置き右手にて茶碗を取り左掌に載せ右手にて茶碗の向を持ち前へ廻し茶碗の向ふ前を定め右手にて膝先の幷ひの客疊へ出す

一亭主茶碗に茶を入れたる時に上客は菓子を頂戴する旨述べ會釋し次禮して菓子器を取り頂きて前に置き懐中の紙を出して同じく前に置き菓子を紙の上に取り菓子器を拜見して次客へ廻す以下同じく末客取り終れば之れを亭主の方へ持行く可し場合に依り末客に止どめ置くも苦しからず而して後に上客より仕舞の挨拶をなしたる時に末客は菓子器を持ち上客の所へ返し置く又末客に菓子器止め置きたる節には末客より順次に上客へ廻し返す上客は菓子器を右の方へ戻し置く可し

一茶碗出づれば上客出でゝ茶碗を取り疊の縁内次客との間へ置き次禮をなし茶碗を膝前

に置き點前へ挨拶をなし而して右手にて茶碗を持ち左掌に載せ右手を添へ茶碗を頂き次に右手にて碗の向を持ち前へ廻して茶を呑む呑み終れば右手の拇指と食指とにて呑口を拭ひ茶碗を疊の縁外に置き拜見を爲して後茶碗の前向を正し呑み口を下座に向け亭主の出だせし所へ戻し置く次客以下は茶碗取込み上客へ一應進めて後次客へ進むるのみにて其他變る事無し

一亭主服紗にて釜の蓋を取りたる節には上客の一口呑みたる時右手にて服紗を取り帶に挾み控へ居る茶碗返れば右手にて茶碗を取り左掌に載せ呑口を見て直ちに膝前に置き湯を柄杓に半分汲み茶碗に入れ柄杓を釜の上に初めの如く置・柄・杓・を爲して置く茶碗を右手にて取り上げ左に渡し湯を建水に捨て茶巾を取り茶碗を拭ひ茶を入れ茶を點じて出すこと何遍にても前に同じ

一亭主茶碗の湯を建水に捨てたるとき上客より仕舞ひ呉れと云はゞ主は右手にて茶碗を

膝前に置き御湯でも如何と述べ上客幷に亭主は互に挨拶をなし右手にて柄杓を上より取りて左手にて扱ひ持ち替へて水を汲み茶碗に入れ柄杓を釜の上に引柄杓を爲して載せ置く右手にて茶筌を取り左手を茶碗に添へ茶筌を洗ひて後二度茶筌捻じをなし茶筌を元座に置き右にて茶碗を取り左手に持たる儘右手にて茶巾を取り茶碗の中に入れ又右手に茶碗を持ち替へ膝前に置き右手にて茶筌を取り茶碗に入れ茶杓を取り右膝先の

上に持ちたる儘左手にて建水を少し後へ引き直ちに左手にて服紗を取り茶杓を握り込みて服紗捌きを爲し疊みて左掌に載せ茶杓を二度拭ひ茶杓を俯向けて茶碗の上に初めの如く掛け置き右手にて其儘直ちに茶碗を少し左向ふへ寄せ同じく右にて棗を取り茶碗の右脇に疊の眞を割りて置き合し然る後ち服紗を建水の上にて拂ひ帶に挾む

一次に右手にて柄杓の柄を上より取り左手にて扱ひ水を汲みて釜へ入れて後直ちに柄杓

を搆へて右手にて釜の蓋をなし柄杓を右手に持ち替へ蓋置の上へ初めの如く引く

一水指の蓋を右手にて取り左手にて扱ひ右手にて蓋をなし右手にて柄杓を取り上げ左手にて扱ひ右手にて柄を横にして節の所を握り込み左手にて蓋置を取り右手の拇指と食指とにて之れを持ち一膝左へ向きて左手にて建水を持ち左膝より立ち左へ廻りて勝手へ始の如く入り又出て〻棗茶碗を持ち右へ廻りて勝手へ引次に出て〻水指を持ち同じく勝手へ入り勝手口に座し一禮す

一上客棗茶杓の拜見を乞はんと欲すれば亭主水指の蓋をなしたる時に所望すべし亭主之れを受けて柄杓を右手にて取り左手にて柄杓の柄の裏を持ち建水の上に俯向け合を建水の縁を外づして載せ置き右手にて蓋置を取り左手に渡し柄杓の柄の下建水の後ろに置き右手にて茶碗を取り疊の左方に假置をなし右手に棗を取り左掌に載せ一膝客付へ向き直りて棗を膝前に置き左手にて服紗を

取り捌き疊みて右に持ち左手にて棗を取り服紗にて拭ひ服紗握り込みたるまゝ棗の蓋をあけ蓋の裏を調べ下に置き服紗を其儘打返して棗の緣の向ふ幷に前を左より右へ拭ひて棗の蓋を閉め服紗を膝前に置き棗を左掌に載せ右手にて棗の向ふ前を正し棗の前を客の方へ向け圖の所へ出し服紗帶に挾みて風呂の正面に向き直り右手にて茶杓を取り左手に持前の如く一膝客付へ持廻りて右手にて茶杓を向ふへ向けて持ち棗の右に幷べ置く次に又風呂に正面して左手にて柄杓を取り右手に持ち替へ前の如く蓋置幷に建水を持ちて勝手へ入る事前に同じ

一亭主建水を引かば上客は前へ進み棗茶杓を取込み棗を右膝脇に置き茶杓を取り更に棗の右脇に幷べ置く亭主水指を運ひ去りし後上客は次禮して棗を疊の緣外に置き拜見して次客の右膝先の所へ送る次に茶杓を取り拜見して同じく次客へ送る順次之れに變ることなし末客拜見し終れば上客幷に末客は

共に前へ進み出會ひて末客は棗を上客の右膝の方へ返し茶杓を左膝の方へ返して席に復す上客は之れを取て初め亭主の出したる打返しに置并べて返し席に復す

一棗茶杓返れば亭主は出て丶両器の前に正面して座す上客は一禮す亭主答禮して右手にて棗を取り左掌に載せ更に右手にて茶杓の中央を持ち棗と并べて勝手へ退き茶道口に座して一禮をなす

一茲には普通多く用ゆる茶器の扱ひを示したるものにして特種の器には夫々異なる扱ひあるものと知るべし

風宮
水指
ヨボシ

水指
ヨボシ

四疊半本勝手風呂濃茶點前

一初め風呂の右脇に水指を置き茶入を其前に莊り置く可し

一亭主茶道口を開け茶碗を左掌に載せ右手を添へて胸の高さに持ち運ひ出して風呂に向ひ疊の左右眞中に座し左手にて茶碗を疊の左方へ假置し右手にて茶入を少し右へ寄せ左手にて茶碗を取り上右手にて扱ひ更に左手に持替へ茶入の左へ置合す

一次に建水を持出し茶道口を閉ぢし定座に進む着座して左手にて柄杓を取り膝の眞中にて構へ右にて薄茶點前の如く蓋置を出し小板の左前角に置き柄杓を其上に引き主客共に總禮す次に建水を少し向へ進めて居ずまいを正す

一右手にて茶碗を取り左手にて扱ひ更に右手に持ち替へ膝前に置き直ちに右手にて茶入を茶碗と膝との間に置き両手にて茶入の袋の緒を解き打留を左方へ向け右手にて袋の

口を押へ左手にて打留を引き出し袋の口の向ふを延ばし次に前を延ばし然る後右手にて袋の儘茶入を左掌に取上げ右手にて袋の口の右を外し左を外し茶入を袋より取出して茶碗と膝との間に置き両手にて袋の口を延ばし右より左へ打返して右手にて水指と風呂との間少し向ふへ寄りたる處に置く乃ち袋の打留は水指の方に向け置くべし

一服紗を取り四方捌きを爲し薄茶點前の如く疊みて右に持ち左手にて茶入を取上げ蓋の向ふ并に前を二文字に拭ひ續いて服紗を茶入の横に當て茶入を右廻しに拭ひ茶入を水指の前少し左方へ寄せたる方へ置き服紗を常の如く捌き直して左掌に載せ右手にて茶杓を取り三度拭ひ茶入の上に蓋のつまみを右にして置く次に茶筌を出して茶入の右方に置合す次に服紗を左手に持ちたる儘右手にて茶碗を少し前へ引き寄せ服紗を其儘二つに折返し右手に持ち小板の右前角を二文字形に拭ひ服紗を左手に持たせ茶巾を右手

にて取出し逆手にして小板の上の拭ひたる處に置き服紗を帶に挾む

一小板を用ひずして燒物又は木地等を用ひたる時には水指の蓋を服紗にて拭ひ茶巾を置く猶又水指の蓋木地又は共蓋等なる時は拭ふに及ばず直ちに茶巾を其上に置く

一次に右手にて柄杓を取り左手に持ち搆へて釜の蓋を取り(婦人又は共蓋は薄茶點前同斷)蓋置の上に置き湯を茶碗に汲み置。柄。杓。を爲して釜の上に載せ置き右手にて茶筌を取り

茶筌投じを薄茶手前の如くなして茶筌を元坐に置き右手にて茶碗を取り左に渡し湯を建水に捨て右手にて茶巾を取り茶碗を薄茶點前の如く拭ひ右手にて茶碗を膝前に置き茶巾を取出し釜の蓋の上に置き右手にて柄杓を取り左手にて茶入を取り茶杓握り込みて茶入の蓋を取り蓋を茶碗の右横に置く次に茶杓にて茶をすくひ入れ茶杓を茶碗の縁にて拂ひ其儘茶杓を縁に載せ置き茶入に右手を添へて廻しながら茶をあけ切になし茶

入の口を右手の拇指と食指とにて拭ひ其指を懐紙にて拭ひ茶入の蓋を爲して元座に置き右手にて茶杓を取り左手にて一寸扱ひ右手に持ち左手を茶碗に添へて茶を捌きて左手を離し茶杓を茶碗の縁にて拂ひ茶杓を茶入の上に戻す

一次に右手にて水指の蓋を取り薄茶點前の如扱ひ右手にて水指の脇に立掛け直ちに右手にて柄杓を柄の上より取左手にて扱ひ更に右手に持ち替へ水を汲み釜に入れ直ちに湯を汲みて茶碗に少し入れ柄杓を切柄杓を爲して釜の上に置き右手にて茶筌を取り左手を茶碗に添へ能く茶を揉りて茶筌を茶碗の内に入れたる儘碗の縁にもたせ掛け置き再び湯を汲みて茶筌を左手に持ち茶筌の穂先より湯を掛け乍ら茶碗に入れ茶筌を中に入れ置き置柄杓を爲して柄杓を釜の上に載せ置き再ひ右手にて茶筌を持ち茶を能く揉りて後茶筌を取出し元座に置き右手にて茶碗を取上げ左掌に載せ茶碗を常の如く廻して

定座に出し續いて懷中の古服紗を取出し茶碗の下座に置く

一上客出でゝ茶碗古服紗を取込次客との間疊の縁内に置き客方總禮を爲す上客茶碗を取り左掌に載せ頂きて茶碗の向を持ち前へ廻し茶を一口飲む亭主は此時服加減を尋ね上客之に答へ然る後三口半飲む次客は上客の二口飲みたる時次禮をなす上客飲み終れば茶碗の呑口を能く拭ひ呑口を向ふへ廻し次客へ茶碗を手渡して上客は次客へ對して一

禮を爲す次客は茶碗を受取り上客の送禮と共に茶碗を頂き同じ呑口より三口半呑み三客へ廻して送禮を爲す末客迄總て次客に變る事なし

一亭主は服加減を尋ねて後其儘一膝客付へ向き直り控へ居る上客は茶碗を次客へ渡したる後茶銘幷に茶師の名等を尋ね亭主之れに答ふ

一末客呑み終れば亭主は居前に向き直り釜へ水を一杓次ぎ置柄杓を爲して釜の上に柄杓

を置く若し服紗にて釜の蓋を取りたる節は服紗帶に挾み控へ居る

一末客呑み終れば茶碗を上客の前に持ち行き席に復す可し上客は茶碗を緣外に置きたる儘次禮して茶碗を拜見し次客の緣内へ送る續いて古服紗を見同じく次へ送る末客見終れば上客幷に末客は共に前へ進み出會いて末客は上客へ茶碗古服紗を返し席に復し上客は之れを亭主に返す

一亭主茶碗返れば右手にて古服紗を取り懷中

して後同じく茶碗を取り込み左掌に載せ呑口を見て下に置き主客共に總禮す

一次に右手にて柄杓を持ち湯を汲みて茶碗に入れ切柄杓を爲して柄杓を釜の上に置く然る後右手にて茶碗を取上げ左手に渡し湯を建水に捨て一應仕舞ふの挨拶を爲し客之れに答禮す

一右手にて柄杓の柄の上より持ち左手にて扱ひ右手にて水を汲み茶碗に入れ引柄杓を爲して柄杓を釜の上に置き右手にて茶筌を取

り茶筌投じを二度爲し水を建水に捨て茶巾を茶碗に入れ膝前に置き茶筌を取りて茶碗に入れ茶杓を取り右膝先に持ちたる儘左手にて建水を少し後ろへ引き服紗を取り捌きて茶杓を拭ひ茶碗の上に載せ直ちに茶碗を少し左手へ寄せ茶入を置合し中仕舞に爲す事薄茶點前に同じ

一次に右手にて柄杓を取り扱ひて更に持替へ釜へ水を一杓さし然る後柄杓を構へて釜の蓋を爲し柄杓を蓋置の上に引き右手にて水指の蓋を取り始めの如く三手に扱ひて水指の蓋を爲す

一上客は此時茶入茶杓袋の拜見を乞ふ亭主はこれを受けて右手にて柄杓を取り左手に渡し建水の上に懸け置き右手にて蓋置を取り左手に渡し建水の後ろ柄杓の柄の下に置き然る後右手にて茶碗を疊の左方へ假置し同じく右手にて茶入を左掌に取上げ一膝客付へ向き直りて膝前に茶入を置き服紗を常の如く捌きて蓋并に横を拭ひ服紗を下に置き

茶入の蓋を取り裏を驗べて服紗の向ふへ置き服紗を取り茶入の口を拭ひて又下に置き茶入の蓋を爲し右廻しに爲して向ふ前を正し客疊へ出して後服紗を帶に挾み居前に向き直り右手にて茶杓を取り同じく客付へ持廻りて茶入の下座に置き又居前に向き右手にて袋を取り左掌に載せ客付に持廻りて茶杓の下座に袋の底を向ふにして打留を茶入の方へ向け三器を幷べ出す

一次に居前に直り左手にて柄杓を取り右に持ち替へ柄を横にして同じく蓋置を取り右手に持たせ一膝左方へ向き左手にて建水を持ち立ちて左へ廻り茶道口を開け勝手へ引く次に出て〻風呂前に座し右手にて茶碗を取り左掌に載せ右手を添へ立ちて右へ廻りて勝手へ退き又出て〻水指を持ち勝手へ引き茶道口を閉ざし待ち居る

一亭主建水を引きたる後上客は前へ進み三器を取込み右膝脇に茶入を置き其右に茶杓袋を幷べ置き控へ居る亭主水指を引去れば上

客は次禮して順次に茶入茶杓袋の拜見を爲す可し以下總て同じ

一末客見終れば上客幷末客は共に前に進み末客は上客に三器を返し上客は之れを亭主の出したる時の打返にして返す而して袋の打留は始終茶入の方へ向け置く可し

一三器返れば亭主は茶道口を開け内に入りて三器の前に座す上客一禮し亭主答禮して右手にて袋を取左掌に載せ同じく茶杓を取りて其上に載せ又右手にて茶入を取りて胸の

高さに幷べ持ち勝手へ引き茶道口に座して一禮す

柄杓の事

一置、切、相互になすべき者なれど數服點づるときは此限りにあらず但し引柄杓は水の時に限るものとす

水
コボシ

猪

四疊半逆勝手風呂薄茶點前

一服紗を帶の右に挾み水指を持ち左足より席に入り水指を風呂の左脇に置き右膝より立て左へ廻り右足より茶道口を出て次に棗茶碗を常の如く持ち出で水指の前に座し棗を水指の前客付に置き茶碗を右手に持ち替へ棗の右方に置合し前の如く勝手へ入り右手に建水を持ち出し居前に座す

一右手にて柄杓を取り左手に持ち搆へて右手

にて蓋置を出し小板の右前角に置き左手にて柄杓を蓋置の上に引き建水を進め左手にて茶碗を取り右手に渡し膝前に置き右手にて棗を取り茶碗膝との間に置き右にて服紗を取り左手に渡し服紗捌きを爲して棗を拭ひ圖の所へ置き茶杓を拭ひ棗の上に手なりに置き茶筌を取出し水指の眞前に置き棗と茶筌とを斜めに流し置く以下如此總て本勝手の打返しにして茶を點じて出す

一棗の蓋を取りし時には茶碗と膝との間に置

き茶を點て客に出す時には左手にて出す

一終りに茶筌を茶碗に入れ茶杓を取り右手に握り込みて建水を後ろに引き茶杓握り込みたる儘服紗を取り捌きて茶杓を拭ひ茶碗に載せたる後服紗を拂ひ帶に挾み然る後水指の前に棗を右手にて初の如く置き其右に茶碗を莊り戻す

一水指の蓋を取るには右手より三手に扱ひ左手にて水指の右脇に立掛け置く

一同じく濃茶點前も右に示したる如く本勝手

濃茶の打返しに爲す可し

一廣間ならば柄杓蓋置を右に持ち左手に建水を持ち勝手へ引きても宜し然れども小間等踏み疊一疊のみの席なれば左手に柄杓蓋置を持ち右手に建水を持ち引く可し

風呂
水
コボシ

水指
コボシ

中置薄茶點前

一水指を持ち出し小板の左前脇に置き次に棗茶碗を常の如く持ち出でゝ小板の右前に置合し建水を運び出して定座に置風呂の正面に居前を定む左手にて常の如く柄杓を取り構へて右手にて蓋置を取り出し水指の前に置き杓を其上に引く其他の手順は總て常据の點前に變る事無し

一水指の蓋は右手にて取り左手に持替へ水指左脇に立て懸け置く

一終りに茶杓を拭ひ茶碗に載せ服紗を拂ひて後棗を少し右方へ寄せ右手にて茶碗を取り上げ左手にて扱ひ更に右手にて茶碗の右横前を持ち棗の左方へ置合す可し

風呂
水
コボシ

水
コボシ

臺子長板類風呂薄茶點前

一臺子本莊りの節建水を莊り有る時には茶碗を左掌に載せ右手を添へ持ち出して臺子の前に座し左手に茶碗を持ち替へ疊の左方へ假置し然る後足の甲を重ね右手にて棗を取り持ちたる儘左掌に載せ足の甲を外し棗を右手にて臺子の前右方に置き左手にて茶碗を取り右手にて扱ひ左手にて棗と置合し右手にて建水を取り左手に渡して左膝脇に置き次に両手を膝前に突きて右手にて火箸を抜き右より左へ杓立と建水との間を通して膝前に持ち來り左手にて扱ひ火箸の先を向ふに爲し右手にて左手の向ふを持ち更に左手にて火箸の元の所を上より持ち臺子地板の左脇に凡そ一寸程前へ出し置き次に左手にて蓋置を取り出し右手にて扱ひ左掌に載せ穗屋香爐の蓋置を用ひたる時には穗屋の蓋を打返し右手にて杓立の前に置き建水を少し向ふへ進め順次常の通手前を爲し茶筌

を出し棗と置合し茶碗を前へ引き手を膝前に突き右手にて柄杓を取り左手にて扱ひ湯を汲みて茶筌投じを爲し常の通り茶を點じて客に出す

一臺子點には柄杓を蓋置に引く事無く終りに茶杓を拭ひ茶碗に載せ服紗を拂ひ帶に挾みて後棗茶碗を本仕舞に爲す事中置點前に述べたる如し而して右手にて柄杓を上より取り左手にて扱ひ水を汲みて釜へ入れ續いて湯返しを爲し左手にて柄杓を扱ひ更に右手

に持替へ杓立に莊り戻す可し次に水指の蓋を閉め穗屋蓋置の蓋を打ち返し元の如く爲し杓立の前に置き左手にて火箸を取り右手に持ち再び左手にて右手の向ふを持ち更に右手に持替へて杓立と蓋置の間を通して杓立に莊り戻し次に右手にて茶碗を取り右手にて疊の左方へ假置を爲し右手にて棗を持ち左掌に載せ足の甲を重ねて臺子天井の中央に莊りて足の甲を外し一膝左へ向き建水を持ち勝手へ引き次に出で右手にて茶碗を

取り左掌に載せ右手を添へて勝手へ引き次に水次の蓋の上に茶巾を載せ持出して水指の前に座し水次を左膝脇に置き右手にて水指の蓋を取り左手にて水指の左脇に立て掛け右手に茶巾を取り水次の口に當て水指に水を次ぎ水次を下に置きて水指の蓋を閉め水次を勝手へ引く

長板風呂點前

一本莊りの節は臺子點前に述べたる如く爲す可し

一二つ置の節は初め棗茶碗を持出し水指の前に置合し建水を持出して定座に置き柄杓を構へて蓋置を出し長板の左前角板の上に置き柄杓を其上に引き又終りに臺子點前の如く本仕舞に爲すのみにて餘は常の通り也

一一つ置きの節は中置點前の如く水指を長板

の左前疊の上に置き棗茶碗を長板の右前に置合し建水を運び出して定座に置き左手にて柄杓を取り搆へて蓋置を取り出し風呂の前左脇に置き柄杓を其上に置き柄を風呂の前に一文字に引くのみにて餘は中置點前に變らず

一終りに柄杓蓋置を長板に莊らんと欲せば釜へ水をさし續いて湯返しを爲して搆へて釜の蓋を爲し柄杓を蓋置の上に初めの如く置き水指の蓋を閉めて後右手にて柄杓を取り長板の左の端しに眞直に莊り同じく蓋置を取り左手にて扱ひ右手にて柄杓の柄の右に莊り置く

一二つ置并に一つ置は總て竹の蓋置を用ゆるを良とす

臺子長板類風呂濃茶點前

一臺子本莊りの節は茶碗を持出し居前に座し茶入と置合し右手にて建水を取り左手に渡し左膝脇に置き次に前述の如く火箸を扱き

取り地板の左脇疊の上に置き左手にて蓋置を取り右手に持替へ其儘杓立の前に置き主客共に總禮して後建水を少し向へ進め居前を正す次に茶碗茶入を常の通り膝前に置き茶入の袋を取りて右手にて袋の右横を持ち左手にて袋の底を持ち臺子天井板の左前角に置く次に服紗を取り四方捌きして茶入を拭ひ定座に置き順次に茶杓茶筌を常の通りに置きて服紗を二つに折返して水指の蓋を拭ひ服紗を左に渡し茶碗を前に寄せ茶巾を

水指の蓋の上に乗せ共蓋又は婦人は服紗を右膝先に置き右手にて蓋置を左掌に取り上げ穂屋の蓋を打返して元座に置き右手にて釜の蓋を取り其上に載せ服紗にて釜の蓋を取り帛紗は建水の後に置き然る後両手を膝前に突き右手に柄杓を取り左手にて扱ひ右手を持ち替へて湯を汲み茶碗に入れ柄杓を釜の上に載せ置き茶筌投じを爲し順次に茶を點じ終りに本仕舞に爲すの外は運び濃茶點前に變り無し

一終りに釜へ水をさし湯返しを爲して柄杓を前に持ち來り左手にて扱ひ右手を持替へて杓立に莊り戻して後釜の蓋を閉め續ひて穗屋の蓋を元の如く打返して元の所に置き次に水指の蓋を閉む

一上客茶入茶杓袋の拜見を乞ひ亭主之れを受けて蓋置の位置を少し向へ進め續いて火箸を杓立に莊り戻し右手にて茶碗の右前を取り左手にて疊の左方に假置し茶入を持ち一膝客付へ向き茶入を拭ひ客疊へ出し次に常の如く茶杓并に袋を出だし建水を持ち勝手へ引く以下前述に等し

一長板一つ置は中置濃茶點前に等しく柄杓を風呂の前に一文字に引き茶入の袋を建水の向ふに置く

一同二つ置は柄杓を引落しに爲し袋は前に同じく建水の向ふに置く其他終りに本仕舞に爲すのみにて他は運び點前に同じ

一臺子には蓋置の七種の中を用ひ長板一つ置二つ置に限り竹蓋置を用ゆ共差支なし

一臺子長板總莊の濃茶に限り柄杓持ちながら釜の蓋を取ることなし

棚ある時の風呂薄茶點前

一棚に棗のみ莊り在る時は茶碗を持出し臺子點前に述べたる如く疊の左方に假置し右手にて棗の棚の前の少し右へ寄りたる方へをろし左手にて茶碗の左横前を取り右手にて茶碗の右横を持ち左手を左横に持ち替へ棗と置合し次に建水を運び出し普通運び點前

の如く茶を點ず終りに棗柄杓蓋置を莊らんと欲せば柄杓は湯返しをして常の如く爲し水指の蓋を閉め次に柄杓を取り棚へ莊り又蓋置を取り同じく莊り次に茶碗を右手にて直ちに疊の左方へ假置し右手にて棗を取り棚へ莊りて建水を持ち勝手へ引き次に水次を持出し水指へ水を次ぐこと前述に等し

一棚に棗柄杓蓋置莊り在る時は茶碗を持出し同じく棗と置合し建水を運出し定座に置き次に右手にて蓋置を取り左手にて扱ひ右手

にて定座に置き同じく柄杓を取りて蓋置の上に引き定法の如く茶を點ず終りに總莊りを爲さんと欲せば茶筌投じを爲して水を建水に捨て茶巾を取りて茶碗を拭ひ茶碗を膝前に置き茶巾を取り出して絞り疊み直して茶碗に入れ次に茶筌を入れて定法の如く仕舞ひて柄杓蓋置棗茶碗を順次に棚へ莊りて建水を勝手へ引き水次を持出して水指に水を次ぎ服紗を取り捌きて水指の蓋の上又は平棗なれば其上に莊り置きても宜し

一棚に總莊りなし在る時にして建水のみ莊り無き時は常の通建水を持出して常座に置き一膝右へ寄り水指の前に座し右手にて服紗を取り帶に挾む此時若し棚に棗茶碗幷べて莊り在る時は両手にて両器を共に定座に下す若又棗茶碗を分けて上下等に莊りある時は先づ右手にて茶碗を取り左手に渡し次に右手にて棗を取り而して棗茶碗を共に水指の前に置合し更に一膝左へ寄りて居前に座し次に前述の如く蓋置を取り柄杓を引き常

の通り茶を點じて客に出す

同濃茶點前

一初めに定法の如く薄茶器幷に水指のみを棚へ莊り水指の前疊の上に茶入を莊り置くなり

一茶道口を開き茶碗を常の如く持出し前述の如く茶入を置合し建水を持ち席に入り茶道口を閉ざし居前に進みて定法の通茶を點じて客に出す

一茶入の袋を置くには棚の天井板の左前角に置く而して丸卓は棗の前に置くべし

一茶を點じ終れば前述の總莊りを除くの外の莊方を用ひて宜し

風呂臺目席濃茶並薄茶點前

一臺目席風呂點前に於ては風呂の四寸向ふを開け据へ終りに本仕舞に爲すのみにて手順は本勝手席に異なる事なし

立禮式の種類並に點前

一本莊り手前幷に二つ置の二種とし風呂の扱ひなれとも爐幷に風呂の時候に用ひても不苦而して立禮式には點茶盤、喫架、圓椅等を定法の通り用ひ大概ね長板點前に同じと雖も點前の節火箸を抜き取る事無し

一常に炭斗を點茶盤の下板の上に莊り置く可し

一亭主茶道口に立ちて一禮し客も同じく立禮し亭主席に入り圓椅の右より入りて腰を掛け右手にて建水を取り左手にて點茶盤の左前角に置き蓋置を取り出して定座に置く但し本莊りの節は杓立の前に二つ置の節は風呂の左前脇に蓋置を置き定法の如く茶を點じて右脇の喫架の上に出す茶碗出づれば通ひの者喫架の前に行き茶碗を取り客の喫架の上に持ち行き一禮して元に返る客茶を呑み終れば通ひの者は客の前に進み茶碗を取り亭主に返す

一亭主茶を點じ終り常の如く茶碗に茶巾茶筌を入れ茶杓を取り左手にて建水を下板の左方に置き次に服紗を取り捌きて茶杓を拭ひ本仕舞に爲す事常の如く爲す可し

一亭主立て勝手へ引く節には圓椅の左方より出て〻引く可し

茶道

らのとまや 二之巻

目次

一四疊半本勝手爐初炭手前
一同逆勝手爐炭手前
一臺目本勝手席爐初炭手前
一同逆勝手手前
一向切本勝手初炭手前
一同逆勝手炭手前
一隅爐本勝手幷に逆勝手初炭手前

一釣釜の炭手前
一爐透木扱の事
一臺子長板類爐初炭手前
一棚ある時の炭手前
一爐本勝手後炭手前
一四疊半本勝手爐薄茶點前
一同本勝手濃茶點前
一同逆勝手爐薄茶幷に濃茶點前
一向切本勝手薄茶點前
一同濃茶點前

一向切逆勝手薄茶點前
一同逆勝手內流しの事
一同逆勝手外流しの事
一隅爐本勝手薄茶點前
一同本勝手濃茶點前
一同逆勝手點前
一臺目本勝手爐點前
一同逆勝手爐點前
一四疊半爐流し點前
一臺子長板類爐薄茶點前

一同濃茶點前

一棚ある時の薄茶幷に濃茶點前

茶道

うらのとまや 二之巻

四疊半木勝手爐初炭手前

一炭斗を持ち出し爐の右方に置き次に灰器を運び出して右の方へ廻り斜に座し道具疊の隅に置き然る後爐の正面に居前を定め右手にて羽箒を爐と炭斗との間にをろし同じく鐶を取りて炭斗の前少し左に寄りたるへ置き同じく火箸を羽箒の右に置く次に右手に

て香合を取出し左掌の上にて扱ひ右手にて炭斗の前、鐶の左方に置きて後右手にて釜の蓋を閉む(共蓋又は婦人は服紗にて釜の蓋を扱ふ事風呂手前に述べたるが如し、)次に鐶を取り釜に掛け置きて右手にて釜敷を取り打返して左手に渡し膝の左方に置き一膝前へ進みて釜を上げ鐶を釜に預け置き一膝左へ向き釜を疊の中央より少し右方に引き寄せ鐶を外づして釜の左方乃ち疊の中央に置き居前に向き直り右手にて羽箒を取り爐

緣の右方を二羽、掃き夫れより向ふの爐緣を右より鍵の手に左横の爐緣を箒き續いて前方の爐緣を三羽根、向へ箒き次に爐段の向ふの左より右前迄鍵の手に同じく左横の向より前へ鍵の手に箒き羽箒を香合の右へ斜に置く

一亭主爐緣を箒き初むる時に上客は一禮して爐邊へ進み次客以下も共に一禮し出て〻炭の拜見を爲す

一次に亭主は右手にて火箸を取り右膝先の前

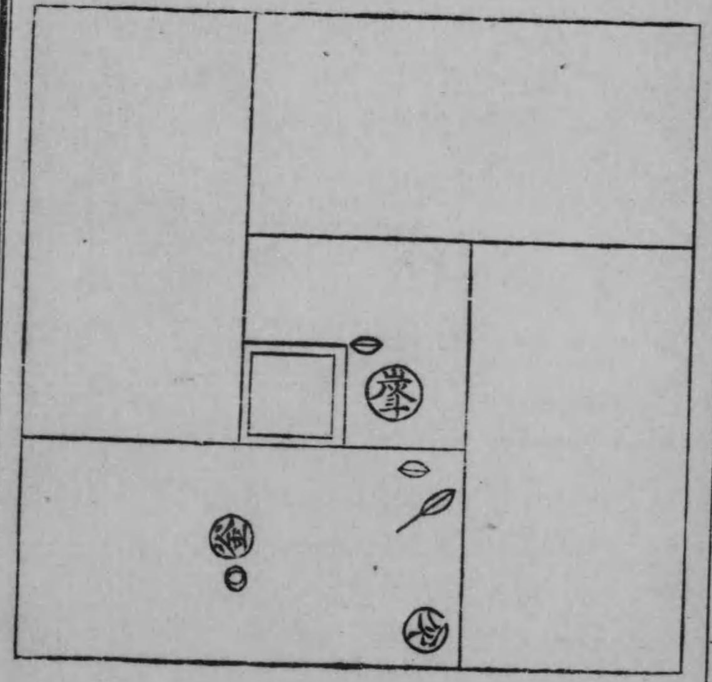
にて突き持ち替へ下火を直し火箸を炭斗の中へ入れ両手にて炭斗を少し向へ除け置き一膝右へ向き右手にて灰器を取り持ちたる儘居前へ向き直り左手を添へて炭斗の前に爐縁へ少し掛け置き右手に灰匙を持ち灰を竪に割り其右方の灰をすくいて爐の向ふ中央より左へ左の中央迄次に同じく灰をすくい左横中央より前の中央迄又同しく向ふ中央より右横中央迄次に灰匙を柄の下より持ち替へ手を逆にして右横中央より前の中央

迄灰を蒔き更に初めの如く灰匙を持ち替へ灰をすくいて下火の前に蒔き灰匙を灰器に伏せて入れ置き右手にて灰器を取り上げ一膝右へ向き灰器を元座に返し居前に向き直り右手にて羽箒を取り前の如く爐縁爐段并に五徳の向ふの爪より右左の爪を順次に箒き羽箒を元座に置き両手にて炭斗を少し前へ寄せ右手にて火箸を取り横にして左手に持たせ右手にて直ちに胴炭を持ち五徳の左右の爪の間に手なりに入れ右手を袖の中に

て拭ひ直ちに火箸を持ちて順次に炭をつぐ
點炭をつぎたる時末客より一禮し連客皆ひ
としく一禮をなして席に復す亭主は炭をつ
ぎ終りて火箸を炭斗の中に入れ右手にて羽
箒を持ち初めの如く爐縁爐段を箒き羽箒を
炭斗の上に初めの如くに載せ置き右手にて
香合を取り左掌に載せ蓋を取り初鐶の在り
し所に置き右手にて火箸を取り香を焚き火
箸を元に返し香合の蓋を爲す上客拜見を所
望す亭主は之れを受けて香合の向前を正し

て爐縁の右向ふ角の脇に置き一膝左方へ向
き釜に鐶を懸け膝前の所迄引き寄せ置き居
前に向き直り釜を取上げ爐にかけ左手にて
釜敷を取り打返して右手に持ち替へ炭斗の
中へ入れ釜のゆがみを正して鐶を外し炭斗
の中に入れ一膝下り後羽箒にて釜の蓋を箒
き羽箒を炭斗の上に返し釜の蓋を切る次に
一膝右へ向き右手にて灰器を持ち勝手へ引
き次に出て炭斗の前に座し炭斗を引く香合
返らば出て香合の前に座し一禮して勝手へ

引く事風呂手前に同じ



四疊半逆勝手爐炭手前

一逆勝手は大概ね本勝手の打返しにして灰器を定座に置き又は爐縁の傍に置く時には左手にて爲す初め羽箒火箸は左手にて炭斗の脇に出し香合を出す時には右手を以て爲す可し而して火箸幷に羽箒を使ふ時には左手にて取り右手に持替へて扱ひ釜を上げ定座へ引き付け鐶を外づし右手にて釜の右に置く其他風呂逆勝手に述べたるが如し

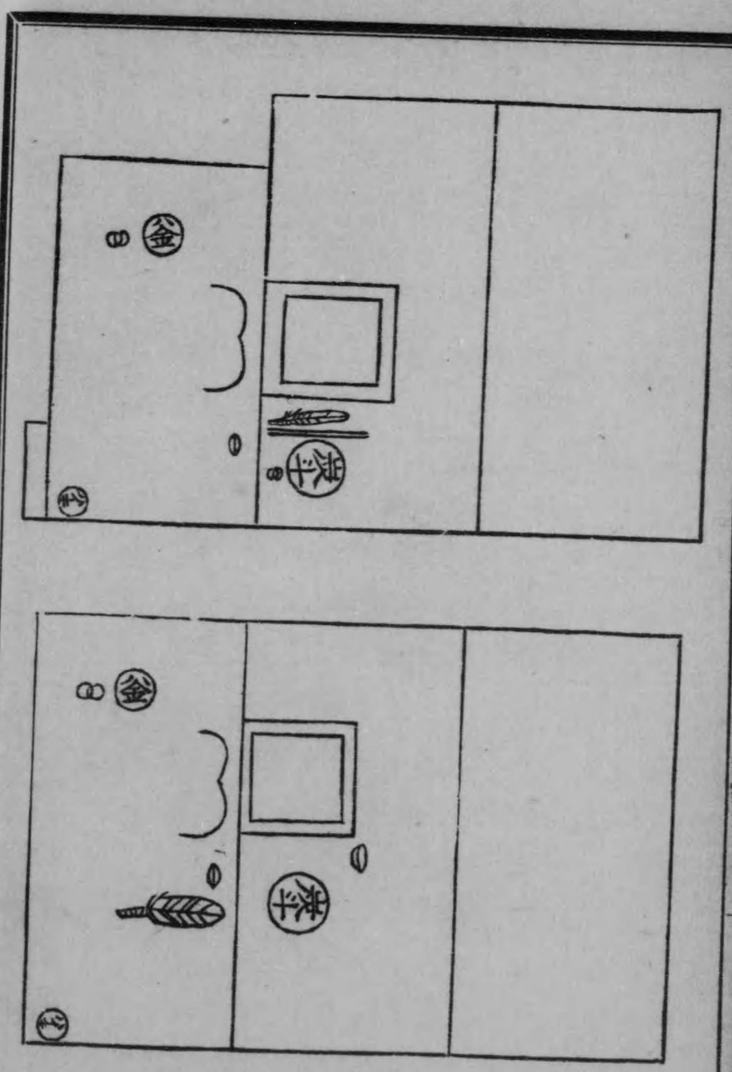
炭斗

炭斗

臺目本勝手席爐初炭手前

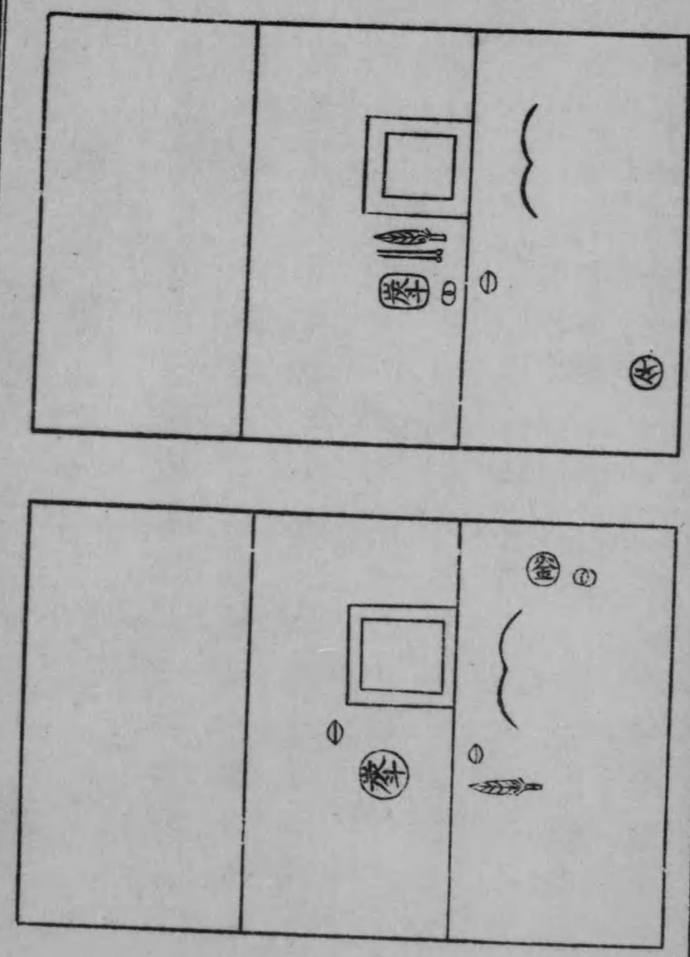
一臺目出爐の席は炭斗を運び出し爐の右方に常の如く置き灰器を持出し定座に置き居前に向ひ羽箒を常の如く爐縁と炭斗の間に置き鐶を取り疊の縁外炭斗の眞前に置き火箸を常の通り羽箒の右に置き香合を出して疊の縁内に鐶の在る所より少し左へ寄りたる方に置く

一釜を上げ定座に引付け置き羽箒を取り爐縁を箒く事定法の通り爐縁を箒き終て羽箒を香合の右脇に眞直に置く可し



同逆勝手々前

灰器并に鐶火箸羽箒等の扱は前述四疊半逆勝手の通り爲す可し其他道具の置合せは總て本勝手の打返しなり

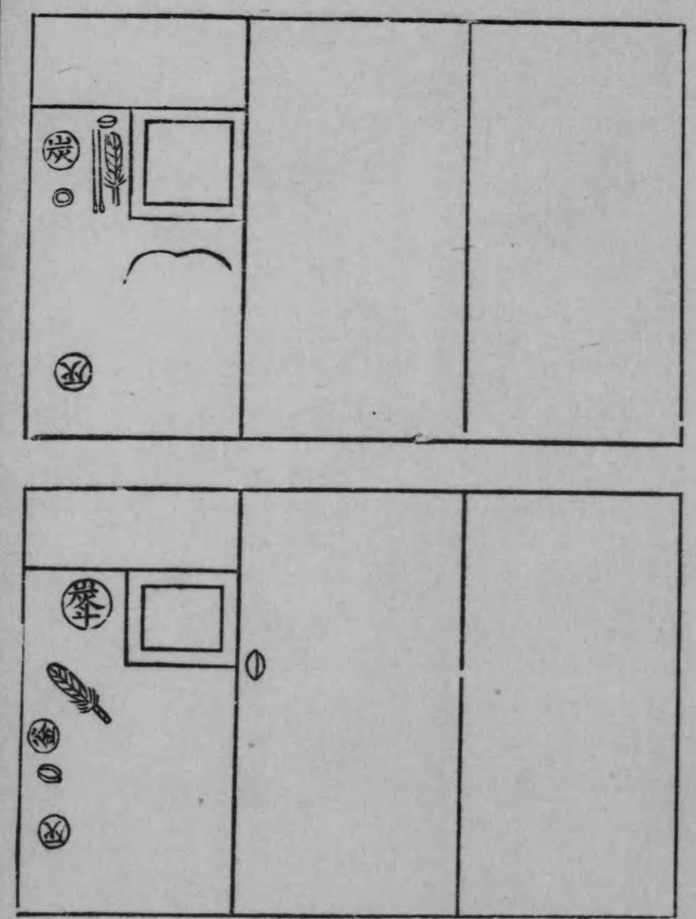


向切本勝手初炭手前

一向切席の炭手前は普通逆勝手の如く爲し羽箒を炭斗と爐縁との間に置き火箸を其左に置き又香合を羽先きの所に置き鐶を炭斗の眞前に置く

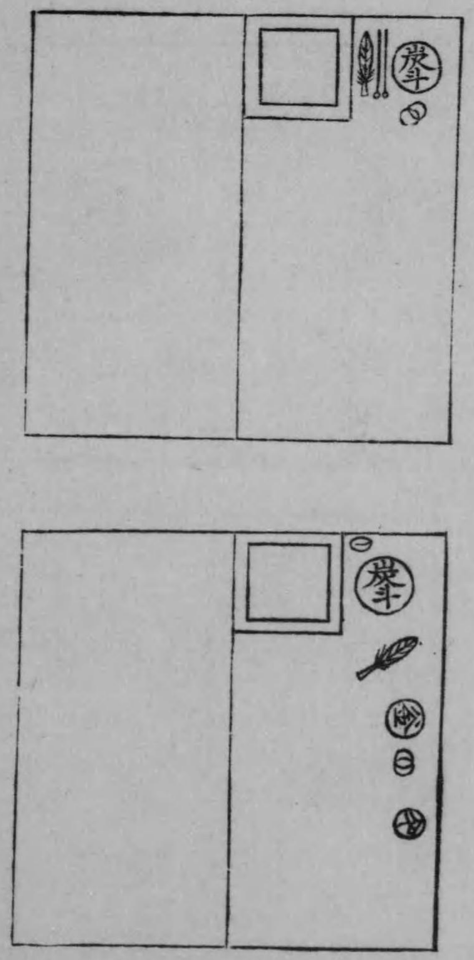
一羽箒幷に火箸は左手にてをろし香合は右手にて取り出し又爐縁を箒く時には左手にて羽箒を取り右手に持ち替へて箒く事等逆勝手定法の通り爲す可し次に釜敷を炭斗の前

に置き釜を上げ一膝左へ向き釜を左方へ引き置き鐶を外づして釜の下座に置く而して爐縁を箒きたる後には羽箒を釜と炭斗との間に手なりに斜めに置き香を焚く節には香合の蓋を左膝先の處へ置く可し



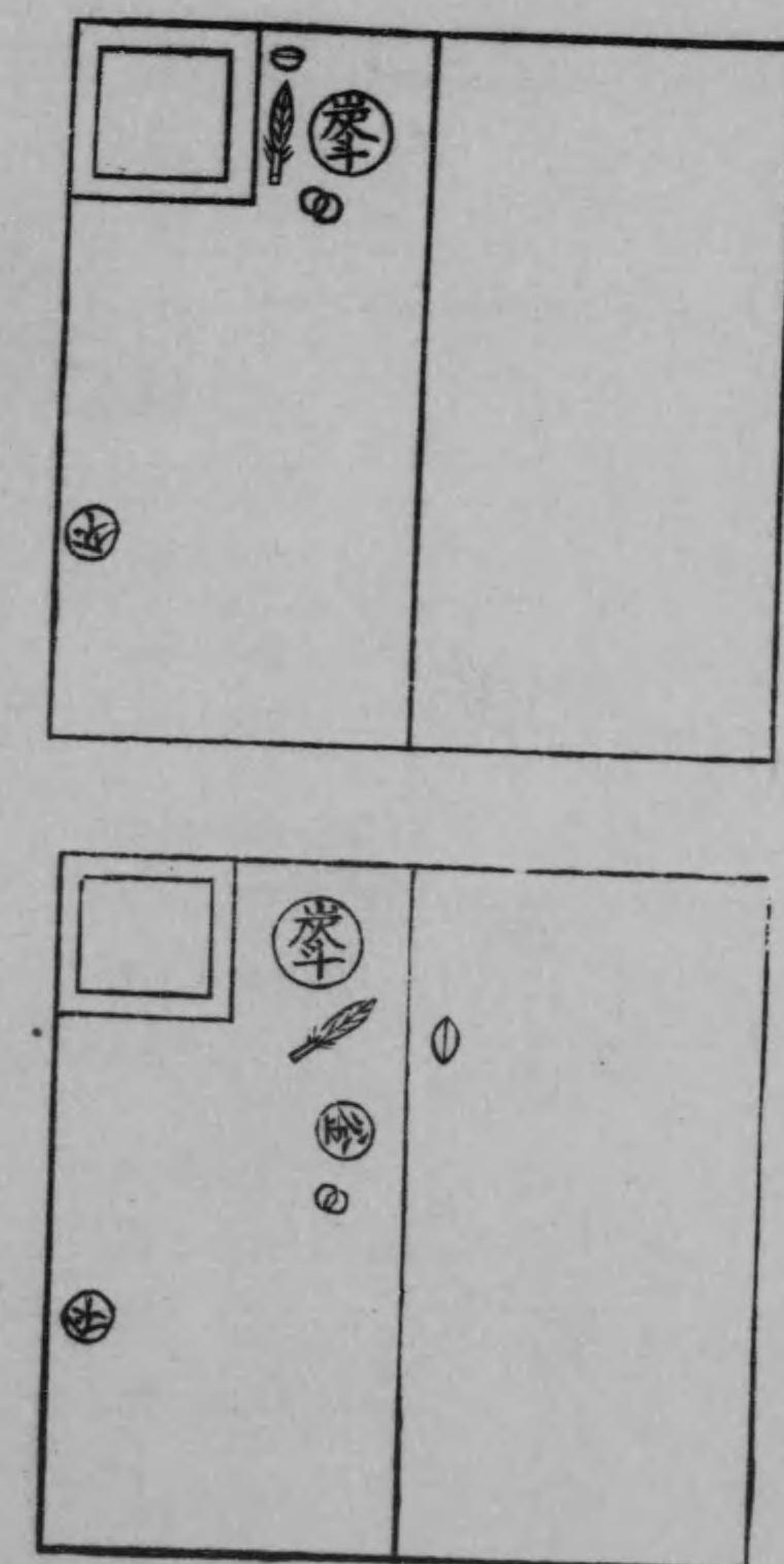
同逆勝手炭手前

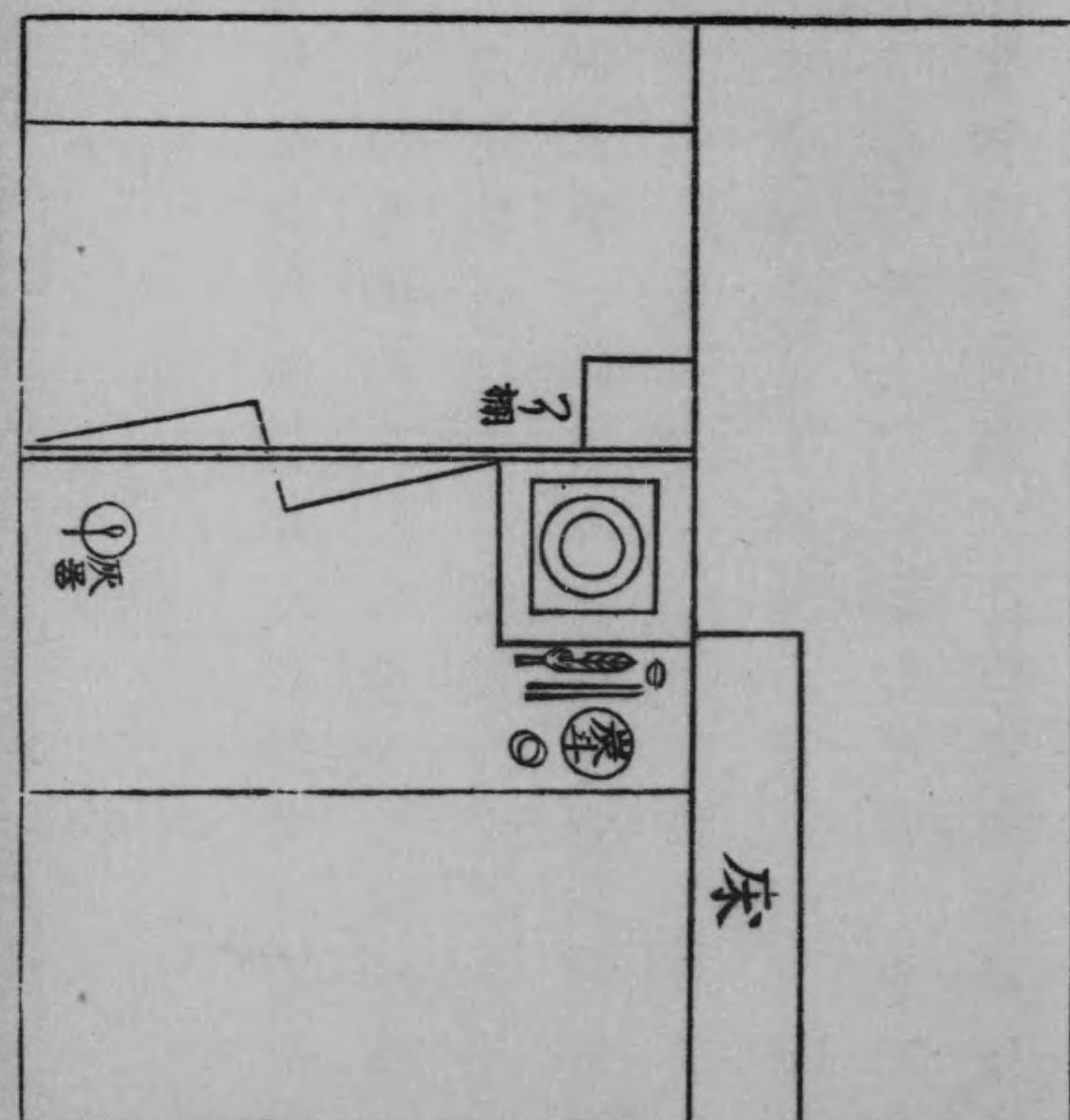
一本勝手向切りの打返しなり



隅爐本勝手並に逆勝手初炭手前

一隅爐は大概ね風呂手前に同じく火箸を羽箒の右に置き香合を羽先に置く逆勝手は此打返しなり




床

釣釜の炭手前

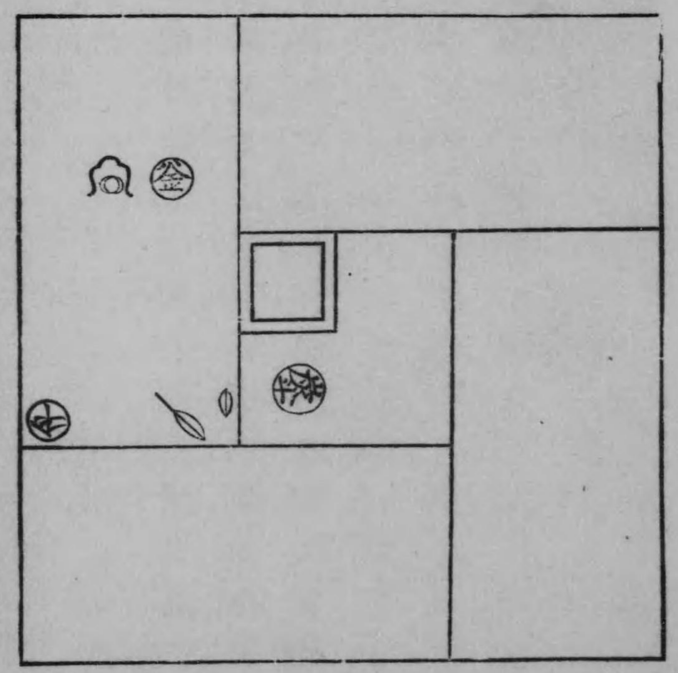
一釣釜の扱ひは常の如く羽箒火箸香合を出し
て釜の蓋を閉め次に左手にて鍵の頭と蔓と
を下より抱へ持ち右手にて小鎖を凡そ二つ
三つ程上げ一膝進み次に釜敷を常の所に出
し左手にて蔓を上より握り持ち右手の四指
を右の鐶にかけて釜を上げ置蔓を左に持ち
右にて鐶を外し右に蔓を持替へ左の鐶を外
し蔓を両手にて畳の眞中に置き釜を鐶にて

定座迄引付け鐶を外し蔓の眞中に置く而し
て若し勝手付の方に壁有る時又は棚荘り有
る時は蔓を壁に立てかけ置き鐶を常の所に
置き鎖を五つ程繰揚置くなり

一炭をつぎ終り香を焚き鎖を五つ程繰下け置
釜の鐶を掛け初め釜を上たる所迄引寄せ蔓
を取り左手に持右手にて右方の鐶を掛け右
にて蔓を右に持替左の鐶を掛け初釜揚たる
如く持ち鎖に始め揚けたる時と同様に掛け
後釜敷を炭斗の中に入れ左手にて初めの如

く右手にて小鎖を持ち釜を始め繰揚し丈下し膝後に下り常の如く釜の蓋を箒き蓋を切りかけ置く可し此釣釜は二三月のころより用ゆるを宜とす

一鎖の扱ひは自在の扱ひに異なる事無し



爐透木扱の事

一風呂の項にて述べたる如く爲し左手にて透木を鐶の左方に置き炭をつぎ香を焚き終りて後左手にて透木を取り右手にて扱ひ左掌へ載せ上の方を取りて右方の爐壇へ置き次に今一つの透木を打返して左方の爐壇へ置き釜を掛ける事前に同じ

臺子長板類爐初炭手前

一初め炭斗灰器を常の如く持出し爐前に向ひ羽箒を取り炭斗と爐縁との間に置き次に臺子の正面に向ひて火箸を扱き取り居前へ持ち廻りて羽箒の右脇に置き香合を取出し常の所に置く次に釜の蓋を閉め鐶を掛け釜を上げたる後釜を臺子の前左方迄引き付け鐶を外づして其左脇に置く炭終りて釜を掛け釜敷并に鐶を炭斗の中に入れ釜の蓋を箒き